

緊急消防援助隊車両（拠点機能形成車）の配備について

広域応援室

1. はじめに

東日本大震災では、発災日から88日間にわたり、延べ約3万1千隊、約11万名の緊急消防援助隊員が被災地に出動しました。しかし、3月の東北は低温・降雪といった過酷な気象状況であり、また、津波浸水地域での厳しい活動など隊員が激しく疲弊していました。これまでこれほどの大規模で長期の活動は想定していなかったため、温かい食事やシャワー、トイレの衛生面などが十分でなく、大きな課題を残しました。

これらを踏まえ消防庁では、被災地での長期かつ過酷な環境下での消防応援活動を支援するための後方支援資機材を積載した「拠点機能形成車両」を開発・配備することとしたので、その概要を紹介します。



拠点機能形成車両

2. 拠点機能形成車両

(1) 車両概要

「拠点機能形成車両」は、全長約12m、全幅約2.5mで100人規模での宿営が可能な資機材を積載した消防応援活動を支える拠点を形成する車両です。また、車両後部荷室部分がせり出して広さ約40㎡の空間を確保し、隊員の休憩所や指揮本部になります。

特徴としては、以下のとおりとなります。

- ・大型エアータント（4式）

1式あたり約5分で展帳でき、25人が寝泊まり可能。また、コンパクトに収納でき、搬送が容易。

- ・発動発電機（4台）

定型出力2.0kVA。8.6～5.0時間の連続運転が可能。

- ・冷暖房機（各8機）

上記発電機の電力を活用し、就寝中でも使用可能でテント内を快適に過ごせる。



大型エアータント



内部



- ・簡易トイレ（10セット）
簡易テントでプライバシーを保護。汚物は、凝固剤を活用して可燃ゴミとして処理。
- ・組立式シャワー（2セット）
組立式のシャワーで、収納時はコンパクトで積み重ねての保管が可能。シャワー室とボイラーユニットの構成。
- ・調理器具（2セット）
強力な火力（灯油）で短時間に大量の煮炊き、炊飯ができる組み立て式・コンパクト設計の調理器具。一回に大人数（100～200人程度）の調理が可能。
- ・浄水器（1器）
海水、雨水、淡水、冠水などの清水化が可能。また、4サイクルガソリンエンジンを搭載し、単体で使用可能。
- ・情報通信機器（衛星通信装置など）
インフラ途絶の中、部隊運用に必要な情報通信機器等を配備。

(2) 配備先等

本車両は、消防庁が消防組織法第50条（国有財産等の無償使用）に基づき、全国9消防本部に配備しました。南海トラフ地震や首都直下地震により甚大な被害が想定される地域や全国的な大規模災害への即応体制のバランスを考慮し、配備しました。

配備先消防本部

	都道府県名	消防本部名
1	北海道	北見地区消防組合消防本部
2	岩手県	久慈広域連合消防本部
3	千葉県	習志野市消防本部
4	静岡県	静岡市消防局
5	愛知県	豊橋市消防本部
6	大阪府	大阪市消防局
7	奈良県	奈良県広域消防組合消防本部
8	愛媛県	松山市消防局
9	熊本県	天草広域連合消防本部

※2、4、7については、平成26年度配備予定



発動発電機



冷房機



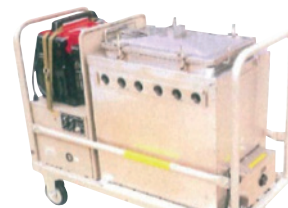
暖房機



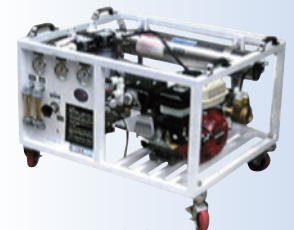
簡易トイレ



組立式シャワー



調理器具



浄水器



衛星通信装置（移動式・固定式）

3. おわりに

東日本大震災の経験を踏まえ、長期に及ぶ緊急消防援助隊の活動を支えるためには、隊員の安全管理の面からも、士気向上の面からも、きめ細かで、アメニティの高い後方支援体制の確立が不可欠です。

各登録消防本部におかれましては、大規模災害発生時に際し、緊急消防援助隊として効果的に活動できる体制づくりに取り組まれるようお願いいたします。

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室 近藤
TEL: 03-5253-7527